

【取組の特徴】

実証ほの設置・技術研修会の開催による栽培技術の向上、ニーズ調査や産地育成指導による販売力の強化により、有機農業取組面積・生産量が増加

【取組の成果】（27年→29年）

- ・有機農業面積の拡大：192ha（27年）→203ha（29年）
（うち有機JAS取得面積：137ha（27年）→127ha（29年））
- ・オーガニック・エコ農産物生産量（推計）：490t（27年）→504t（29年）

【取組のポイント】

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業者団体（5団体）が連携しながら、有機農産物及びエコ農産物の生産拡大に向けた取り組みを実施

○ 有機農業面積等の増加や栽培技術等の習得に向けた取組

- ・有機水稻栽培の最大の課題である除草技術について、生産者や指導者の知識を深めるため、水田除草機の実演会を開催するとともに、減農薬栽培を目指す生産者グループの水田に実証ほを設置し、除草効果や収量への影響を検証。
- ・県内の有機農業者団体の構成員が講師となって、大豆や野菜、果樹の有機栽培技術の研修会を開催。



水田用除草機の実演会の開催

○ 消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業やエコ農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県内スーパーと連携し、有機栽培ほ場での生き物調査やエコファーマー産地での収穫体験など、体験型のイベントを年2回開催。
- ・県民向けの食のイベントにおいて、特設ブースを設置し、生産者自らが有機農産物のPRを実施。



県内スーパーの顧客である親子を対象とした生き物調査

○ 産地販売力・育成力を強化するための取組

- ・有機農産物への志向が強い首都圏の実需者を対象に、ニーズの高い品目や価格等に関する情報収集を実施。
- ・首都圏のアドバイザーを産地に招聘し、有機農産物の県外出荷や加工販売のポイントについて学ぶ、産地指導を実施。



県アンテナショップで、首都圏の有機農産物のニーズを調査